

台の上の月より梅のてつとてさき御堂の御堂の八の草蓮花
 表花より右ハ孔雀の羽のてつとてさき御堂の御堂の八の草蓮花
 主手受室の上のてつとてさき御堂の御堂の八の草蓮花
 蓮の心五重草蓮の心受室のてつとてさき御堂の御堂の八の草蓮花
 夕のハ孔雀の羽のてつとてさき御堂の御堂の八の草蓮花
 二子 翔キ後手ハ孔雀の羽のてつとてさき御堂の御堂の八の草蓮花
 孔雀の朋及両翼ハ不規則ハ無数、羽のてつとてさき御堂の御堂の八の草蓮花
 足ハ塊のてつとてさき御堂の御堂の八の草蓮花
 五花以下ハ一方のてつとてさき御堂の御堂の八の草蓮花
 光北のハ孔雀の尾のてつとてさき御堂の御堂の八の草蓮花
 せり 塊のてつとてさき御堂の御堂の八の草蓮花

修り 半頭及修理前ハ仕態
 本体ハ 白毫毛根 黄入胡粉彩色 孔雀の紋ハ細毛の
 雲より多ク 銅製法金ノ冠 胸飾 鑲銅ノ附
 各半天持物アリ 即チ左半第一年二年ハ孔雀の尾 第三年
 六月は縁果 左半第一年二年ハ吉祥果 第三年ハ蓮花
 ナリ 刺目ハ大部分根傷セリ 睡堂ニ刺目ハ刺目ハ縁果
 台の上ハ 刺目ハ孔雀の尾のてつとてさき御堂の御堂の八の草蓮花
 右方ハ刺目ハ孔雀の尾のてつとてさき御堂の御堂の八の草蓮花
 正指 刺目ハ孔雀の尾のてつとてさき御堂の御堂の八の草蓮花
 刺目ハ孔雀の尾のてつとてさき御堂の御堂の八の草蓮花
 上よりハ刺目ハ孔雀の尾のてつとてさき御堂の御堂の八の草蓮花

一 老若ノ履ニシテ網ノ同様に其ノ布張リ
損傷ス

一 信理兼手袋ニ就テ先ツ本体ハ骨具ヲ用テ損傷箇所

ハ全ク洗エテ堅ク其肩甲ノ接合レ縫合ム銅釘

ヲテ取エテ本肩ヲツメテ洗脱セテ平治ナラシメ胡粉

一 細縫具ヲ用テ着衣色ノ古色任ヒニシタリ

一 山口ニ又損傷箇所ニ至レテ洗エテ固着セシメ階三層

ニタリト習ヒニム丈夫ナル塊ヲ造リニ差シシム年法併年

草草 多量ニタリ花柄等ノ損傷セル所ニ洗淨ス

ニ之ニ重シキモ在谷工ノ泥地仕エテ之レヲ放任

スル時ニ蓋シ損傷虫ニ廣大セシメ

洗淨スエリ同様にノ草草トセシタリ

以上 修理せしむ所ト有ヘト古色仕エヨトト可 修理

靴 脚靴ハ体四脚ニ打テ付ケタリ

一 台座ハ同じク檜ニテ造リ乗御坐即ち八辺葺蓮花
敷茄子ハ孔雀ノ背ニ乗リ中央ニ心棒ヲ立ツ孔雀ハ両翼ヲ張りテ
立テ受坐ノ上ニ乗リ下ハ反花三段框坐黒塗円坐ナリ
蓮肉ハ五重葺蓮肉受坐ハ二枚矧キ敷茄子四ツ矧キ
クラハ孔雀ノ肩ニ接スル曲部
ニテ矧キ後ニモ二本矧目アリ
孔雀胴及両翼ハ不規則ナル無数ノ矧キ合セナリ
足ハ塊ニテ腹部ニ差込ミ両足指ハ付ケ根ニテ矧グ
反花以下ハ八方矧キ
一 光背ハ孔雀ノ尾ヲ以テ之ニ替小片無数ノ矧合
セナリ 塊ヲ以テ腰ニ差シ込ム

一 修理手段及修理前ノ状態

本体ハ二尺六寸ノ坐像白毫玉眼嵌入胡粉彩色 衣紋ハ細金ヲ
□□銅製渡金ノ宝冠玉帶胸飾銀釧ヲ附ス
各手共持物アリ 即チ右手第一手ニハ孔雀尾 第二手
ニハ具縁果 左手第一手ニハ吉祥果 第二手ニハ蓮花
ナリ 矧目ハ大部分損傷セリ 膝裏ニ別紙記載ノ銘文アリ
一 台座 孔雀ハ塗箔ノ上ニ繪具彩色
右方翼付ケ根アリ折レテ墜落シ左足付ケ根緩ム
両足指矧目皆離ル 敷茄子ト反花及ビクラ矧目皆損傷シ
蓮弁ト受坐及框坐トニ各一ヶ所づゝ浮キ
上ガリタル所アリ ソノ他ハ損傷ナシ

一 光背ハ孔雀ノ尾ニシテ胴ト同様式裏ハ布張り
損傷ナシ

一 修理手段ニ就テハ先ツ本体ハ 矧目ノ損傷箇所
ハ全テ漆ニテ 接合シ鏝或ハ銅釘
ニテ堅メ木屑ヲツメ漆堅地ニテ平面ナラシメ胡粉
繪具ヲ以テ着色シ古色仕上ニシタリ

一 台座モ損傷箇所ハ全ヘテ漆ニテ固着セシメ墜落
シタリシ翼ニハ丈夫ナル塊ヲ造リニ差シ込ム手法ハ佛体ト同法ナリ
受坐反リ花框坐ノ損傷セシ所ハ設計書

ニ之無□□本台坐ハ泥地仕上ニテ之レヲ放任
スル時ハ益々損傷 廣大ト ナル力故ニ 反花ハ漆ニテ矧ギ合セ

浮キ上リハ押へ塗面トセシナリ

以上、修理セシ箇所ハ全へテ古色仕上トシ修繕
銘銅札ハ体内膝裏ニ打子付ケタリ